

## Y17b 国立天文台野辺山見学者 300 万人達成

衣笠健三, 久野成夫, 内藤明彦, 西岡真木子, 宮澤和彦, 篠原徳之 (国立天文台), ほか野辺山職員

2013年10月17日、国立天文台野辺山キャンパスの見学者数が300万人に到達した。

国立天文台野辺山では、「科学の成果を社会に知らせるのは、科学者の責務である」(海部宣男元台長、野辺山宇宙電波観測所30周年記念誌より)というスローガンのもと、1982年の宇宙電波観測所の開所とともに、当時としては他にはあまり例のなかった施設の一般公開(年末年始を除く毎日8:30-17:00(2013年から夏期期間は18:00まで)、自由見学)を実施してきた。その見学者数は、最近の10年は安定しており、毎年ほぼ6万人を数えている。今回の達成は、一般見学開始以来の累計数での300万人であり、32年目での記録となる。

これらの年間入場者数などの数字は、国立天文台他キャンパスの中では最も多いものであり、他の公開天文台の年間入場者数ともひけをとらないものである。(もちろん、その設置状況や施設環境などといった様々な条件の違いのため直接比較できるわけではない。)

国立天文台野辺山では、この一般公開のほかに、教育研究機関への施設案内(2010年まで)、SSH/SPP、地元中学からの職場体験学習などの受け入れを行っており、中学から大学までを含めると年間約20校の対応を行っている。これ以外に、年一回の特別公開も1983年から継続して行っており、3000人程度の見学者が訪れている。

本講演では、この見学者300万人達成の報告とともに、現在行っている野辺山での広報活動全般について紹介する。